

Q37. 流水型ダムの子の長いトンネルの中を魚類などが遡上することができるのでしょうか。

- 流水型ダムは、平常時は水を貯めず通常の川が流れている状態であるため、貯留型ダムと比べて、魚類等の遡上・降下が可能な河川の連続性が確保しやすいと考えられます。
- ただし、ダムの堤体の存在に伴う、河川の一部区間がトンネルとなること等により、流速等が変化し、回遊魚等については、移動環境が変化する可能性があると考えられます。
- そのため、今後、専門家の助言もいただきながら、魚類等への環境影響にも配慮したダムの構造等の工夫を検討するとともに、環境影響評価の手続きにおいて、必要な調査・予測・評価を行い、環境保全措置や配慮事項について検討を行い対策を実施します。
- なお、島根県の益田川ダム（流水型ダム）の事例では、ダムの完成前後にダムの上下流で魚類調査が実施され、上下流のいずれにおいても、アユの個体とはみ跡が確認されています。



図 アユの調査結果(供用後)

出典: 島根県ホームページ「益田川ダムQ&A Q11」

図 益田川ダムのアユの調査結果(供用後)